

国際職業人養成

—— メディア英語による外国語教育 ——

Training for professional and international business career
through learning media English

田 中 稔 久

要 旨

国際機関、政府機関、企業、NPO等で国際的な業務に携わる人材となるための必要条件は、当該分野の専門知識のほか、国際的共通言語、とりわけ現在ではその地位の確立した英語によるコミュニケーション能力を当該職種が要求するレベルで有することである。日本の大学で、国際的な業務に携わる人材育成を目指す実践的な外国語運用力を高めるための英語教育は、メディア英語による政治、経済、ビジネス、文化、社会、科学、芸術、スポーツ、芸能等幅広い分野の情報吸収能力に照準を合わせた教育が最も効果的な方法と思われる。本稿は、国際的職業を目指す学生に対し、新聞、ジャーナル等の活字、放送(地上、衛星)、インターネットなどによるメディア英語をサーベイし、それに習熟するための効果的な教育・学習法を探る。

1. はじめに

国際機関、政府機関、企業、NPO等で国際的な業務に携わる人材を「国際職業人」と名づけるとすれば、国際職業人となるための必要条件は、当該分野の専門知識のほか、国際的共通言語、とりわけ現在ではその地位の確立した英語によるコミュニケーション能力を当該職種が要求するレベルで有することである。英語を母語とせず、英語がほとんど日常生活で使用されない日本で、国際的に活躍できる人材を養成する際の大きな阻害要因になるのは英語能力の問題であり、その能力の飛躍的な向上が大学教育の大きな課題になっている。

国際化教育の一環として英語を重視する大学は多いが、中でも、2004年4月に秋田県に開校予定の国際教養大学は、「たとえば今の国際社会の大問題をきちんと英語で論ずることができる」といった、中身のある教育が大学に求められている。」(中嶋峰雄大学長予定者)とした観点から、英語で「全部」教育をするという新しいコンセプトで、国際社会で活躍する人材を養成しようとしている。同大学では、そうしたイマージョン方式の英語教育により、目標として、前期2年間

の間に「CNNの英語放送も十分理解できるようになる」(中嶋峰雄大学長予定者)ことを掲げている⁽¹⁾。

しかし、日本にいて母語の日本語を用いず、発展途上の外国語のみで専門知識を吸収しようとするのは、学生による専門知識の正確で確実な理解吸収を遅延させるという問題を生じさせる。専門知識の修得は母語の日本語文献で日本語を用いて行う方が遥かに早く、確実に能率的である。そのため、①外国語の学習・習得は専門知識の修得と切り離して行うこと、他方において②国際的なコミュニケーションの場での実践的な外国語の運用力を飛躍的に高めるための方策を講じることが必要である。

国際職業人は国際機関、政府、ビジネス、NPO等、その所属先の如何を問わず、国際情報に明るいことが求められる。現代世界及び日本の動向と情報に通じていることが、所属分野や専門領域の違いを超えて、国際職業人に共通に求められる基本要件である。国際情報の共通言語の代表格は現代メディア英語である。日本の大学で、国際職業人養成を目指す実践的な外国語運用力を高めるための英語教育は、メディア英語による政治、経済、ビジネス、文化、社会、科学、芸術、スポーツ、芸能等、幅広い分野の情報吸収能力に照準を合わせた教育が最も効果的な方法と思われる。また、メディア英語に習熟することは、将来的に国際職業人のそれぞれの所属分野での英語による情報入手やコミュニケーション能力にも大きく資することが期待できる。

本稿は、国際的職業に就くことを目指す学生を念頭に置き、新聞、雑誌などジャーナル、ラジオ・TV放送(地上、衛星)、及びインターネットによるメディア英語をサーベイし、それを習得するための教育・学習法のあり方を探る。

2. メディア英語

メディア英語の伝達媒体と情報形態の種類としては、①新聞、雑誌などジャーナルによる文字情報、②ラジオによる音声情報、③テレビ(地上及び衛星放送)の画像・音声情報、④インターネットによる文字・音声・画像情報がある。特に急激な発展過程にあるインターネットからは、内外の主要英字新聞、雑誌などの最新情報⁽²⁾の他、VOAなどの放送英語⁽³⁾を入手でき、学習者にとり不可欠な情報源となっている。

学習者は文字媒体によるメディア英語と放送媒体によるメディア英語を並行的に学習することにより、英語学習の観点からは、広領域にわたる文章記事の読解力と語彙力、並びに聴解能力を習得していくことができる⁽⁴⁾。

メディア英語で提供される情報は豊富で英語学習の宝庫であるが、通常の日本の大学課程で学生が英語学習に配分できる時間的制約を考慮に入れるならば、効果的な学習のためには、教材としてのメディア英語は少数の質・レベルが高いものに絞り込むことが望ましい。学習者は少数良質教材の徹底した反復学習によるメディア英語の習得過程を通じて、国際的な業務に携わってい

くための実践的英語能力を発展させていくことが期待できる。

3. 時事ジャーナル英語

新聞、雑誌などのジャーナルは、専門分野の予備知識を持たない者にとってもわかるように書かれているため、外国語の読解力が十分あれば、内容理解に困難なことはない⁽⁵⁾。学習素材としての時事ジャーナルは、①学習者が内容的に広範囲の英文に慣れるため、政治、経済、社会、文化、スポーツ、科学、芸術、芸能等、幅広い分野を含むもので、②良質の文章で書かれているものが望ましい。これらの条件を満たす時事ジャーナルは TIME、Newsweek 等数多いが、これらの多くはインターネットからも主要部分が入手可能であるため、学習者は代表的なもの1種類を定期購読し、他はインターネットから随時情報を入手するのが現実的である。

雑誌では TIME や Newsweek は上記条件を満たす代表格ともいえるもので、その内容は政治、経済、ビジネス、社会、芸術、芸能、スポーツ、生活など広範囲にわたるトピックスを、内容を掘り下げ、読みやすい記事にして、良質の英文で提供している。TIME (又は Newsweek) を定期購読し、学生の現在能力に応じて、各号、読む範囲を決め、語彙を確実に増やしながらかみ進め、語彙・読解力の向上につれ読む範囲を広げ、最終的には毎号 cover-to-cover で通読することを目標に学習していく方法をとることになる⁽⁶⁾。

TIME、Newsweek に次ぎ、優れた教材は Reader's Digest (月刊誌) と週刊 ST (週刊紙) である。Reader's Digest は平易な英文で、生活や生き方、近刊書の内容紹介といった基本テーマを中心に広範囲の情報提供を行っており、読みやすく興味を惹く記事が多いため、① TIME や Newsweek に入る前の英語学習者の読解能力向上のため、或いは② TIME や Newsweek と並行して速読用に用い、月1冊を cover-to-cover で通読することを目指すべきである。また週刊 ST はインターネットでその主要部分が提供されているが、特に opinion 欄は政治、経済、社会、文化、芸術、文芸など多岐にわたる内容が平易な英文で書かれており、かつ語彙の訳注とネイティブ・スピーカーによる全文朗読が付いているため、優れた英語教材となっている。週刊 ST は TIME や Newsweek に入る前の英語学習者の読解力向上と放送英語に入る前の聴解力向上のために用いるべきものである。

新聞では記事、論説文の読解能力を向上させていくことが主目的になる。The Japan Times、The New York Times、Washington Post、USA Today、Los Angeles Times、Financial Times、International Herald Tribune、Christian Science Monitor 等の記事、論評、社説⁽⁷⁾等を、学習者は適宜インターネットから取り出し、精読、音読の反復学習により読解能力を向上させていくことになる。

4. 放送英語

放送英語、とりわけTV衛星放送やインターネットを通じての放送英語は日本にいながら生きてきた英語に接する絶好の機会を提供している。TV衛星放送の代表的なものは終日英語放送のCNN、BBC、FOXである。この他では、NHK衛星放送（BS）による米国公共放送局PBSの1時間ニュース番組（NewsHour）が週4回程度、英語字幕（キャプション）付で放送されており、内容がインタビュー、討論が主になっていることから、「話す」英語を学習するための優れた英語教材である⁽⁸⁾。

またインターネットを通じてVOA、BBC、NPRなどが、多岐にわたる情報をニュース、レポート、討論などにより豊富に提供しており、且つその多くは音声や全文表記の提供を行っており、学習者にとりきわめて有益な学習素材となっている。

(1) インターネットの放送英語

インターネットで時事情報提供を行っている数多い放送局の中で、学習者にとり最も有益なものはVOA Newsであろう⁽⁹⁾。その理由としては、①VOAは米国政府機関の放送局だが、米国政府の宣伝広報ではなく、ニュースや論評の客観性、中立性を重視した報道方針をとっており、学習者にとり抵抗の少ないものである。②国際政治、経済、ビジネス、文化、社会、芸術、芸能、生活、健康、科学、スポーツなど多岐にわたる情報を、予備知識、専門知識がなくても容易に理解できる内容にして提供している。③放送内容の多くが全文表記されており、放送音声と併せ利用できる。すなわち、音声とtranscriptを照合することで放送内容の理解を確実にし、放送英語の口頭表現とスピードに急速に慣れる上で大きな効果がある⁽¹⁰⁾。VOAはこの点が特に充実しているため、英語学習者にとり優れた英語教材になっている。学習者はVOAの豊富な情報源から、録音とtranscriptを基に自ら作成した教材の反復学習により、放送英語習得に大きな成果を挙げる事が可能になる。

ラジオ放送としてはVOAに次いで学習上有益なものは、米国の民営ラジオ国際放送局NPR⁽¹¹⁾、及び中波（MF）ラジオ放送で聴取可能なAFN⁽¹²⁾がある。NPRは、時事ニュースのほか、文化、芸術、生活、対談、ドラマ等、幅広い内容のラジオ番組をインターネットを通じ提供しており、放送内容・番組の録音及び全文のtranscriptを有料で提供している。またAFNは、短い時事ニュース、スポット案内・広告、生活相談、対談、トーク・ショー等の録音・再生による反復学習により、米国放送英語の表現とスピードに慣れるのに有効である。

(2) TV 衛星放送

CNN、BBC、FOX¹³は日本で視聴可能な、メディア英語学習上最も有益な終日 TV 国際放送である。CNN は放送歴も長く、英語学習者にとり最もよく知られたものであろう。番組内容は政治、ビジネス、インタビュー、ディベート、アジア報道、文化、娯楽、生活、健康、科学、ドキュメンタリーなど多彩である。また BBC も同様にニュース、レポート、討論、インタビュー、ビジネス、エンターテインメント、レジャー、スポーツなど多彩な内容の番組を提供している。CNN は基本的な報道姿勢として国際社会、米国のニュースのほか、放送地域のニュース、トピックスを積極的に取り上げ、視聴者に放送内容に対する親近感を持たせようとしている。BBC は、英国を起点にして、客観性、中立性、不偏性を基調とする報道を提供しているが、国際ニュース、わけてもヨーロッパ・アフリカの報道は充実している。英語学習の観点からは、CNN が基本的に米語、BBC が英国英語であり、英国英語に慣れるためにも BBC の視聴が勧められる。FOX は BBC や CNN と比べて政治報道の比重が高く、「テロリズムとの戦争」が最近の報道の中核となるなど、アメリカの観点からの報道が基本姿勢である。報道内容や論評もアメリカの観点が明瞭に出ている。

報道の基本姿勢に対する好みの問題を別とすれば、米国英語に慣れ、米国の観点やアメリカ社会を知るためには FOX は最も適した教材である。CNN が「国際性」を重視し、「多国籍」的な放送局をめざし、放送地域のニュース報道を積極的に取り上げているのに対し、FOX はあくまでアメリカのニュース、アメリカの観点からの国際ニュース報道が中心である。FOX の英語は米国人の政治家、ジャーナリスト、学者、文化人、評論家、芸術家、芸能人、軍人、警察、消防夫、社会活動家、弁護士、主婦、学生、一般市民等、広範囲な層のアメリカ人が登場して話す日常的な英語である。そのため、学習者は FOX 英語の習得をもって、アメリカ英語習得の目標として設定することができる。

FOX の英語を理解するためには、アメリカの政治、社会、文化に対する理解と関心を持つこと、そして何よりもそこで用いられる高いレベルの日常英語を理解する英語力を要する。FOX 英語理解に達するまでには、ステップを追って英語力を向上させていく必要がある。その準備ステップとして、NHK 衛星放送 (BS) で放送されている PBS NewsHour が最善のものとして挙げられるだろう。これはカレントな出来事の報道、特派員等による解説レポート、インタビュー及び討論番組を中心にするもので、特にインタビューや討論では、政治家、軍人、学者、ジャーナリスト、実業家、文化人、芸術家等、指導者層、知識層を始めとしてアメリカ社会を代表する広範囲の層の人々が登場し、カレントな諸問題を論ずる。この番組で使われる英語は、学習者にとり「話す英語」習得の目標となる¹⁴。PBS NewsHour の英語は、CNN や FOX の英語と同等レベルだが、これが学習者にとってとりわけ有益であるのは、① caption (原文字幕) が画面に出されているため、音声との照合ができること、また②放送内容が全文表記された tran-

script がインターネットで入手できるためである¹⁵⁾。caption と transcript は NewsHour のような高質の TV 時事番組を音声、文字、画面から立体的に学習することを可能にし、学習者のメディア英語聴解力向上にきわめて効果的な役割を果たすことができる¹⁶⁾。

5. まとめ

国際的業務に携わる人にとっては、現代世界の動向と情報に通じていることは、所属分野や専門領域の違いを超えて共通に求められる基本要件である。国際情報の共通言語の代表格は現代メディア英語である。国際情報に通じるとともに、国際コミュニケーションの場での高度で実践的な外国語運用力の習得を図るため、幅広い分野にわたり、ジャーナル、放送、インターネットなどの情報媒体を通じて常時提供されているメディア英語の習得が必要である。

メディア英語は種類も多く、提供される情報量も膨大であるため、学習者は下記方法により、代表的なものを数種選択し、反復学習により習得していくことが現実的かつ効果的である。

(1) 時事ジャーナルと放送英語を各1種（以上）選び、両者を並行的に学習していくこと。

ジャーナルは、TIME（又は Newsweek）の cover-to-cover 通読を目標とするが、Reader's Digest やインターネットで提供される新聞、雑誌を補完的に使用すること。

(2) 放送英語としては、まずはインターネットを通じて VOA News が提供する情報の録音及び transcript を併用しての反復学習を進めること。次のステップは、NHK 衛星（BS）が提供している PBS NewsHour（及び CNN の Larry King Live）の録画及びインターネットからの transcript を併用して、画像、音声、文字による英語放送の表現法、話のスピード、語彙、討論の手法を反復学習により習得する。

(3) メディア英語学習の最終段階は BBC World、CNN News、FOX News といった終日放送の衛星 TV 放送の理解、習得であり、これら放送の視聴を上記（2）の学習と並行して進める。

6. おわりに

メディア英語学習の目的は、国際的な業務に携わるための実践的な英語能力の基礎を身につけることにある。メディア英語学習の最終段階は BBC、CNN、FOX などの衛星放送英語の習得にある。その習得に向けてメディア英語学習の標準的かつ中核的な教材選択は、TIME、VOA 及び PBS（NewsHour）の三つの組み合わせであろうが、学習者はこれらを並行的に学習し、習得に励むことが大切である。英語学習の観点からは、TIME の学習により、広い領域にわたる記事、論説文の読解力と語彙力、VOA 及び PBS からは話す英語の習得がその主な狙いであり、こうしたプロセスを通じて、メディア英語の最終段階である英語による終日 TV 衛星放送（FOX、CNN、BBC）に迅速に入っていくことが可能になる。

グローバル化の進展で、国際的交流・業務の範囲・量が拡大するのに伴い、国際業務に携わる人に要求される国際間コミュニケーション能力が高度化しているが、メディア英語の習得を通じて、学生が国際的な業務に携わる際の基本的な英語能力を身につけ、その基礎の上に国際職業人として、英語による国際間コミュニケーションの実践的な能力を更に発展させていくことが可能になるのである。

注

- (1) 朝日新聞2003.7.6
- (2) 新聞としては The New York Times、Washington Post、USA Today、Los Angeles Times、Financial Times、The Japan Times、International Herald Tribune、Christian Science Monitor、The Times、The Straits Times、Bangkok Post、The Australian、The Sydney Morning Herald 等。雑誌としては Newsweek、The Economist、Far Eastern Economic Review、US News & World Report、Business Week 等
- (3) VOA の他、BBC、CNN、ABC、CBS、NBC、FOX、NPR、等
- (4) 読解、聴解能力のほか、国際業務に携わる者は会話能力を習得する必要があるが、日本での学習には DVD を用いた映画による学習が最適である。サブタイトルやクローズド・キャプションの画面への出し入れ自在な DVD が、日常会話英語の学習に強力な学習素材を提供している。
- (5) 高度に専門化されているため、内容理解が容易でない英文文献は、学習者にとり適切な教材とはならない。こうした著作物は外国語の障壁に内容理解の困難さが加わるため、外国語読解力を向上させる観点からは効果を期待できない。
- (6) TIME、Newsweek 以外の雑誌では、The Economist、Far Eastern Economic Review、Business Week 等があげられるが、これらはいずれもインターネットから最新号の主要内容を取り出すことができる。これらは特に政治・経済情報と内容分析の充実度を求める学習者には格好の reading 教材である。
- (7) The Japan Times の『社説集』が年 2 回刊行されているが、これは社説の翻訳、訳注に加え、優れた全文朗読が収録された CD のついた良質教材である。
- (8) PBS の NewsHour 以外では、NHK 衛星放送 (BS) が米国 ABC 放送局の Nightline という番組を caption 付で放送しており、英語学習に格好の教材となっている。
- (9) VOA (Voice of America) は、米国政府機関の放送理事会 BBG の中の国際放送局 IBB の傘下にある一放送局で、世界でも最大のニュース収集・放送機関の一つである。VOA の放送形態はもとは短波 (SW) 放送が主であったが、①短波放送は受信状態が時々刻々と変化し、不安定であることや特別の受信機やアンテナを必要とすること、及び②これに対しインターネットは安定した受信ができ、且つ文字や画像情報を併せ発信できること、並びに最近のインターネットの発展、普及により、現在ではインターネットによる VOA が学習者にとっては短波放送よりも遥かに利用しやすいものになっている。
- (10) なお、BBC や NPR も一部報道を音声と文章表記で提供している。

- (11) VOA が米国政府機関であるのに対して、NPR (National Public Radio) は民間非営利機関の国際ラジオ放送局である。
- (12) AFN (American Forces Network) は、FEN (Far Eastern Network) の後身。在日米駐留軍兵士・家族向けだが、そのラジオ放送は日本国内で聴取可能。
- (13) 正式にはそれぞれ CNN News、BBC World、FOX News で、いずれも民営放送である。
- (14) PBS NewsHour に次ぎ勤められるのはCNNのLarry King Live である (Larry King 氏是对談番組 Larry King Live のホスト)。この番組は、番組に出る人々の考え方、人生観などに焦点をあて、会話を進めるところに特徴がある。
- (15) NewsHour の transcript は PBS のホームページで入手できる。また CNN の Larry King Live も全文表記の transcript が CNN のホームページから入手できる。
- (16) NHK 衛星放送 (BS) での米国 ABC のニュース解説・討論番組 Nightline も caption 付で放送されており、貴重な英語教材となっている。

参考文献

1. 『The NEWSHOUR リスニング——NHK BS 英語(1)』語研、2003
2. 『The NEWSHOUR リスニング——NHK BS 英語(2)』語研、2003
3. 『BBC World 英語リスニング ニュース・時事問題』DHC、2003
4. 『BBC World 英語リスニング ビジネス・金融』DHC、2003
5. 『BBC World 英語リスニング 文化・社会』DHC、2003
6. 『BBC World 英語リスニング 芸術・エンターテイメント』DHC、2003
7. 『BBC World 英語リスニング 科学・環境』DHC、2003
8. 『ラリー・キング・ライブ・ベスト』朝日出版社、2003
9. 『ジャパントイムズ社説集、2003年上半期』ジャパントイムズ、2003
10. 『VOA ニュースフラッシュ 2003年度版』アルク、2003
11. 小林俊彦著『VOA 英語インタビューの聴き方』語研、2003
12. 小林俊彦著『VOA 英語経済ニュースの聴き方』語研、2003
13. 『AFN ニュースフラッシュ 2003年度版』アルク、2003
14. 『AFN ガイド』アルク、2003
15. 『AFN スポット・アナウンスメント』アルク、1998